

千葉明德短期大学 MAGAZINE 『月歩学歩』 2018年3月号

いい顔、泣顔もいい顔

一緒に歩んだ人

これからも一緒に歩む人

できれば、また来てね

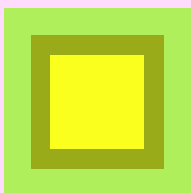
思い出が宝だから

第47回 卒業証書授与式
千葉明聖短期大学

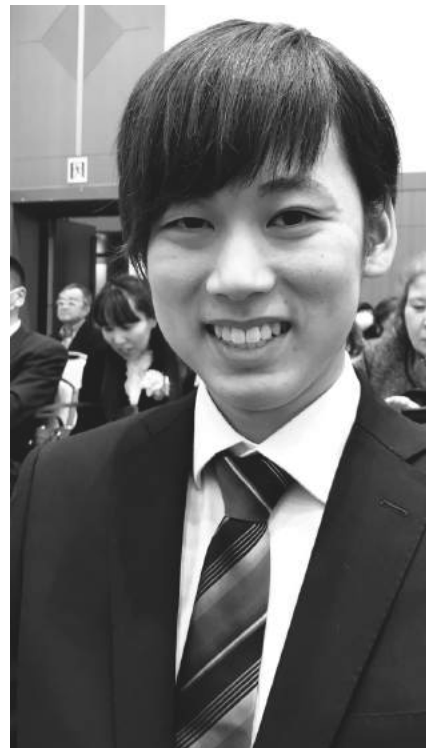
3月号の内容

- ❖ 送辞 伊藤元気 3
- ❖ 答辞 伊藤大貴 4
- ❖ 式辞 金子重紀 楽長 7
- ❖ 祝辞 福中儀明 理事長 8
- ❖ 学友会会長 飯田琴乃より挨拶 10
- ❖ 退職される方々 12
- ❖ 学びの成果発表会 小久保圭一郎 14
- ❖ 明石現のフィールドワーク：水俣 15

■ 編集
深谷ベルタ、久保瑤子



送辞 伊藤 元気 一年生代表



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。諸先輩方と過ごさせて頂いた月日には、語りきれないほどの素晴らしい思い出がたくさん詰まっています。

私が先輩方と特に深く関わるようになったきっかけは、サークル活動でした。サークルではバスケットやバレーボールなど様々なスポーツで体を動かして1年間楽しい時間を過ごしました。12月にはサークルの企画でスポーツ大会を行いました。スポーツ大会では初めてお会いする方やいつもお世話になっている先輩方と同じチームになりました。先輩方は参加した学生全員が楽しく体を動かせるように仲の良さなども考えてチーム分けをして、チームで協力して取り組むことのできるようなたくさんの競技を用意してくださいました。その中でも最後のリレーではチームごとと作戦をたて、走順を決め、どのチームよりも先にゴールテープをきるために必死に走る学生や走る学生を応援するチームの仲間たち、チーム一丸となって競技に取り組む姿は想像以上の盛り上がりでした。スポーツ大会後には1,2年生が混ざり合いチームごとで写真をとる姿も見られ、スポーツ大会を通して先輩方との関わりを持ついい機会となりました。

サークル活動を通して得たものはスポーツを楽しむことだけでなく、普段の学校生活のなかでお話したり、実習のときに「経過記録の書き方とかねらいとか分からなかったらいつでも相談にのる

よ」などと声も掛けて頂けるような関係を築けたことです。

8月には学園祭がありました。学園祭では実行委員以外にもゼミや有志団体など多くの先輩方との初めての交流となりました。学園祭準備では役割ごとの準備の進め方を教えてください、「わからないことがあったら教えるし、手伝うから」と優しく声をかけ、初めてでわからないことの多かった私たち1年生を引っ張ってくださいました。また、ゼミや有志団体の出し物の準備なども忙しい中、学園祭を成功させるために遅くまで学校に残り、委員の活動の多くを率先して取り組む姿は私たちの見本であり、共に活動していく中で2年生の存在の大きさを感じることができました。3週間の短い準備期間にもかかわらず、「わくわく探検隊」や「焚き火」などのゼミ企画をはじめ、子どもたちの笑顔が溢れる明德短大らしい楽しい学園祭を作り上げることができました。先輩方から学んだことを今度は私たちが新1年生に引き継いでいけるように頑張りたいと思いますので、今年の8月の学園祭にもぜひ遊びに来てください！

12月に行われた「めいとくはうたう」では、様々な演奏やパフォーマンスがありました。授業の成果を発表する学生だけでなく、先生方の力が入ったパフォーマンスにも驚きました。なかでも、男子の先輩方が踊った「ultra tiger」がとても印象に残っています。先輩方のパフォーマンスが

ありました。授業の成果を発表する学生だけでなく、先生方の力の入ったパフォーマンスにも驚きました。なかでも、男子の先輩方が踊った「ultra tiger」がとても印象に残っています。先輩方のパフォーマンスはとても面白く、講堂にはダンスに合わせた手拍子と多くの学生の歓声が響き渡りました。僕たち1年生の心を鷲掴み、場を盛り上げようとする姿は素晴らしく、その一方で、来年度も先輩たちのように場を盛り上げられるかどうか、明德短大の男子としてプレッシャーも感じました。

「学びの成果発表会」では、ゼミでの活動や卒業レポートの内容をわかりやすく説明していただきました。ゼミの仲間たちのとの話し合いの中で自分と向き合い、今後、どのように子ども達と関わっていけばよいのかを考えている姿から、私も改めてどのように子ども達と関わっていけばよいのかを考えるよい機会になりました。

2年生の発表を聞いていると、どのゼミも興味深くとてもいい学びとなりました。普段ではなかなか聞くことの出来ない先輩方の2年間の学びや保育に対する考え方を聞かせていただく中で、明德短大での1年の経験の差を大きく感じられるほど、学びの成果を発表する姿は立派でした。4月からのゼミ選択がとても楽しみになりました。

施設実習の際には1年生と2年生がグループ

に分かれて、実習先での経験について話し合う時間がありました。初めは施設実習への不安がありました。が、「3日経てば大丈夫！」という言葉に勇気づけられ実習に向かいました。実際に利用者の方と関わると多くの発見があり、先輩たちが言っていた3日間という意味がわかったような気がしました。想像できないことも、経験するとわかるということを実感し、いまはさらに実習や保育について先輩たちと語り合いたいです。

先輩方がご卒業した後、学内で先輩方の明るい声を聞くことが出来ないと思うと寂しく心細くてなりません。これから進む道は決して平坦ではなく、時には辛く苦しいこともあると思います。そんな時には千葉明德短期大学で過ごした日々を思い出してください。2年間学びを共にした仲間の心は、いつも繋がっています。どうぞ、千葉明德短期大学で出会った友人、先生方、そして私たち後輩のことをわすれないでください。私たちも先に進む先輩方の背中を追い夢に向かって日々邁進していきたいと思えます。最後にはなりましたが、皆様のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げ、「卒業生を送ることば」とさせていただきます。

平成30年3月15日

千葉明德短期大学 1年生代表 伊藤元気

答辞 伊藤 大貴 卒業生代表



「卒業したくない」この言葉は卒業を意識した時から私の口癖になりました。

千葉明德短期大学を卒業する今日、この2年間を振り返ると、楽しかったこと、辛かったことなど、様々な思いが押し寄せてきます。

私にとってこの千葉明德短期大学は、自分の「なりたい」「やりたい」が探せる場所、そして自分にとって大切なものを見つける事ができた場所でした。

千葉明德短期大学を志望した理由は、「体験から学ぶ」という言葉に惹かれたからです。そして私はこの言葉のとおり、沢山の様々な体験をしました。初めての実習、初めての授業、その中で初めて見聞きするもの、初めてのゼミという活動。体験するもの何もかもが新鮮でした。私はこの2年間、学ぶ意欲で満たされ、「保育」というものにどんどんのめり込んでいきました。

2年次の幼稚園実習で、4歳児のAさんという女の子に出会いました。Aさんは、物事の理解が周りの子より少しだけゆっくりであるという特徴を持った子でした。しかし、絵を描く活動で担任の先生がやり方を説明する際、実習生である私が隣で実際に行いながら説明すると理解することができましたし、戸外遊びの際には活動の終わりの時間は過ぎてしましますが、遊びのキリのいいところまでくると納得して室内に戻ることができました。ある日Aさんは、紙を受け皿のようにして丸めた新聞紙を落とさないようにして楽しそうに遊んでいました。そんなAさんを観ていて、一人の子を中心に考えることが良いかどうか迷いましたが、責任実習ではAさんが楽しめる活動をしようと、Aさんを中心に考えました。それは、割り箸と紙皿を使ったラケットと紙に重石をつけたシャトルの製作、そしてそれらを使って遊ぶという活動です。Aさんが一人でも遊ぶことができ、さらに友達ともかかわれるような活動を考え、またAさんや他にも製作活動がゆっくりな子が十分楽しめるように活動を2日間に分けたいということを担任の先生にお願いしました。責任実習当日は、製作が早く終わった子がゆっくり行っている子を手伝ってくれましたし、遊ぶ時間をたっぷりとることもできました。子どもたち皆が楽しそうに遊んでいる姿は、今でもしっかり覚えています。そしてなにより、Aさんもその輪の中に混ざり満面の笑みで遊んでいた姿を忘れることができません。

このように、一人の子を中心に保育を行うことは、保育者になってからはできないことかもしれません。しかし、Aさんは周りの子より行動が遅いと決めつけるような保育者にはなりたくはありません。保育者である大人側がどのように子どもを観ているかにより、保育の内容や方法が決定し、その積み重ねによって子どもの育ちが変わってくるということを常に忘れない

でいたいと思うことができた体験でした。

しかしながら、2年次の実習でこのような体験ができたのも、1年次の失敗があったからです。私は、自分で言うのもおかしいのですが、ここに入学してくる前までは、人並み以上にできる人間だと自負していました。しかし、そのようなことを自分で思っている人間に、いいことなんてありません。私は、大きな失敗を実習でしてしまいました。

1年次の保育所実習のことです。事前訪問の際、本来であればスーツを着用し、頭髪など身なりをしっかりと正して挨拶をするのが基本的なマナーです。そのことを理解していなかった私は、「お願いします」と門前で伝えるだけだと勘違いし、髪の毛は染髪した状態、そして服装は私服という不誠実な態度で園に訪問してしまいました。私は後からこのことを思い返し、自分で自分が嫌になりました。ものすごく反省をしました。だからこそ、そんな自分が与えてしまったイメージを変えたい、そう思い迎えた実習でしたが、事前訪問で与えてしまったイメージを払拭することはできませんでした。

この体験から言いたいことは、服装がスーツであれば良い、髪の毛は黒く染めれば良いということではありません。「自分ができる」という過信、「実習なんて余裕だ」という慢心が、この頃の私の態度に現れていたと思います。それは、「保育」や「子ども」を尊敬しない態度であったと思います。この時に反省したことを、これからも忘れずにいたいと思っています。明德で生活を送ってきた私には、いつのまにか大切なものができました。それは、47回生という仲間です。2年間という短いながらも濃密な時間を過ごしていく中で、仲間の大切さ、尊さに気づくことができました。

2年次のゼミ活動のことです。遠方でゼミ合宿を行うことになり、その初日、一人が集合時間に遅れてしまいました。この日、ゼミ担当の先生は現地集合だったため、ゼミ長である私が責任を負っていました。しかし、一人が遅れてバスに乗れないという予想外の出来事に私は混乱してしまい、冷静に判断ができなくなりました。そうしたとき、一人の学生がその場に遅刻している学生を待つと申し出てくれました。また、バス内の学生たちも、その子を心配してメッセージを送り、ゼミのグループラインは暖かいメッセージでいっぱいになりました。このとき私は、「自分は一人じゃない」「頼っていいのだ」と思い直し、私一人だけで何かをしようとするのではなく、皆に頼って各活動にリーダーを作るなどの工夫をしました。そうして皆で活動した合宿だったからこそ、大成功に終わることができました。

この大学に入っているいろんな人に出会いました。いろんな想いに触れました。その中で、自分とは何なのかと思うことが多くありました。今はまだ自分が何をしたいか、何者かなんてははっきり言えません。でもそれは、出会っていく人たち、経験していく出来事で変わっていくものだと思います。私自身、この大学に来て変わりました。考え方も感じ方も。それにはいい経験だけでなく、苦い経験もありました。でも、それらすべては無駄ではないこと、重ねた出来事のすべてが自分を上げていっているということ、どんな自分にだってなれるのだということを知れたのは明德に来たからです。自分の良いところも悪いところもすべて受け止めて、こんな自分でもいいんだと思えるようになったのはこの明德で出会った仲間のおかげです。

最後に、この明德での生活を共にし、私達と今日まで歩いてくださった方々へ。

先生方。私はこれまで、「学校」というものや、「先生」という人達が好きではありませんでした。自分の方が年齢が上だから、様々な経験をしてきたから、だから自分が言っていることが正解なのだとか常に私達の上に立ち、そこから物を言う存在が「大人」というものだと思っていました。思春期を迎えていた昔の私は、そんな「大人」に反抗意識をむき出しにして関わっていましたし、そんな目で見ていました。そんな私の「大人」を計っていた物差しを、価値観を変えてくれたのは、明德の先生方です。先生方は私達の上にはいませんでした。先生方は私達の隣にいてくれました。

ある授業のことです。1年生の頃の私たちは、月に1回の幼稚園実習のレポートを担当の先生に提出します。私はレポートに戸惑い、分からないながらも必死になり取り組みました。返却されたレポートにはびっしりと赤が入れられていました。必死で頑張ったレポート、こだわった文脈、それらを少し否定されたような気がして「がんばったのに、こんなに・・・」私はそう思ってしまいました。そんなことを思っていた時、その先生は言いました。「みんなのレポートを見て私自身の勉強にもなっている。私は学生皆から学んでいる」、そんなことを言われるなんて驚きました。そして周りの皆のレポートを見ると、私と同じように真っ赤でした。この時になってようやく気づくことができました。自分の時間を削り、授業準備等で忙しいのに、私達のために膨大な量のレポートを読み、赤を入れてくれていたと。こんなに授業が楽しいと思ったのは初めてです。様々な授業がありましたが、どれも今の私に欠かせないものです。

他にも、就職活動で悩んでいるとき、卒業論文で悩んでいるとき、自分が立ち止まりそうになった時

に背中を押してくれた先生方が居ました。

先生方は私達のモデルであり、尊敬すべき存在です。先生方のような大人に出会えたことは幸せでした。私も明德の先生方のように、全てを教えるのではなく、優しく支え、あるべき方向を向かせてくれるような大人に、保育者になりたいと思います。ありがとうございました。

事務の方々へ、この明德で2年間不自由なく学ぶことが出来たのは、事務の方々のおかげだと思っています。実習や就職活動の際、忙しいはずなのに時間を割いてお話を聞いてくれましたね。実習から帰ってくると「おかえり」と私達を迎えてくれました。私たち学生を、見るところからも見えないところからもサポートしてくださり、本当にありがとうございました。

この明德に入学させてくれた両親へ。あまり多くのことを言うのは恥ずかしいので一言。いつも一番の味方でいてくれたことに、感謝しています。これから私自身が歩いていくと決めた道を進んでいくことで恩返しをしていけたらと思っています。本当にありがとうございました。

これから2年生になる1年生の皆さん。これからたくさん失敗すると思います。いろんな壁にぶつかり、挫けてしまうこともあると思います。でもいいんです。そこから立ち上がるたびに強くなれます。皆さんの残りの学生生活が充実したものになるよう心から祈っています。

そして、卒業生の皆へ。私は自分の言葉を着飾りかっこよく伝えようとする癖があります。でも、この最後の言葉を、飾らずに伝えたい。47回生のみんなが、みんなと過ごした千葉明德短期大学が大好きです。これからも支え合い、それぞれの夢を描き変えながら進んでいきましょう。

この日を迎えるまで見守り支えてくださった皆様、本日まで出席くださいました皆様に、卒業生を代表して感謝申し上げます。



平成30年3月15日
第47回卒業生代表 伊藤大貴

式辞 金子重紀 学長



卒業生のみなさん、保護者のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

今、卒業生のみなさん一人一人に卒業証書を授与させていただきました。一人一人の顔が輝いていました。大丈夫、しっかりと社会に飛び立ってくれるという期待と同時に、伝えなかったことがたくさんあるような気がしています。そういう往生際の悪い私から、一つだけ私が考えていることをお話したいと思います。

皆さんは、「親は無くとも子は育つ」という言葉を知っていますか。子どもはたくましいという意味と、子どもは親が無くとも地域や社会が育ててくれるという意味があると思います。親は無くとも子は育つ、これは正しいのでしょうか。少なくとも今の日本社会においては、なかなか妥当する言葉ではないように思います。調べてみると、この言葉自体は、江戸時代の浄瑠璃から取られた言葉であるとのことでした。医学が現代ほど発達していない当時は、子どもを産むのも命がけです。様々な災害によって親を失う子どもも多くいたことでしょう。そのような時代において、「親は無くとも子は育つ」との言葉が生まれたのかもしれない。ただ、歴史を振り返ってみると、世帯が親子だけになってしまったのは、高度経済成長の頃からで、たった50年程前か

らです。子育てが親だけによって行われるようになってしまったのです。それ以前は、子育てに地域や社会が関与していたのです。子育てにおける親の責任が大きくなっていったのです。その中で、児童虐待も生まれてきたとも考えられます。

私事ではありますが、昨年12月に、日本子ども虐待防止学会 ちば大会が幕張メッセで開催され、全国から児童虐待と向き合っている3000人近くの方々が集まってくれました。私は、その大会長を務めさせていただきました。その大会長としての挨拶の中で、次のようなことを話させていただきました。

全国の児童相談所における子ども虐待対応件数は、12万件を超え、千葉県においても平成28年度は6800件に届こうとしており、いまだに増加傾向は止まりません。被虐待経験が子どもたちの人生に大きな影響を与えることは、少年院入院者の男子のうち、28%が被虐待経験を持ち、女子に至っては44%に及んでいること(平成28年度の犯罪白書)からも明らかであります。一方で、少年の刑法犯等の検挙人員(いわゆる非行件数)は、年々減少していますが、家庭内暴力の認知件数は年々増加しています。このように見てきますと、社会や大人に対して小さくなりながら怯えながら生きている多くの子どもたちの姿が見えるような気がしてきます。社会と個人の在り方について問うているのだと思います。

児童虐待やその予防に関わっている人達は、決してその親の責任を追及することに主眼があるのではありません。その親や子を社会に受け入れようとするのです。そうすることで虐待を止めさせ、防止しようとするのです。

私は、もう一度「親は無くとも子は育つ」という言葉を考えてみる必要があるのではないかと考えています。個々の家族が孤立化の中で、子育てに悩む社会、一方で女性が社会進出する社会、子育てを社会で支えていく必要性は高まっています。もちろん、親や保護者の存在を否定するものではありません。ただ、私たちの社会は、もう一度、社会で子育てを支えていくことを明確に考えなければならないように思えるのです。「親は無くとも子は育つ」と言えるくらいの安心した子育て環境が保障される社会を作っていくことが必要なのだと思います。

こう考えると、保育者の役割は、とても大切です。より大きくなっていくのではないのでしょうか。まさに、社会で子育てを支えていく役割を担っているのだと思います。

みなさんは、子育ての専門職として社会に出ていきます。そうでない人も、いつか子育てにかかわると思います。みなさんが、これからの社会の在り方を創造していくのだということメッセージとして送りたいと思います。

最後に、卒業されたみなさんは、私たち千葉明德短期大学の教職員とは、対等な社会人としての関係になります。私たち教職員も、この短大で、学生と向き合っていく中で、社会と向き合っていきます。みなさんもそれぞれの職場で社会と向き合ってください。そして、もしよかったら、みなさんが考えたこと、悩んだことをこの短大に持ち寄ってください。共に対等な社会人として一緒に悩み、考えましょう。私たちもみなさんに相談できたらいいなと思っています。外から見た千葉明德短期大学についての意見をもらって、より良い大学を作っていけたらいいなと思っています。

千葉明德短期大学は、いつでもみなさんを待っています。

以上をもって、式辞といたしたいと思いません。

祝辞 福中 儀明 理事長



卒業証書を授与された126名の皆さん卒業おめでとうございます。またご家族の皆様方もおめでとうございます。

皆さんは千葉明德短期大学の第47回の卒業生になります。二年間の努力の甲斐あって、きょうの卒業を迎えることができたわけであり、その学修内容を生かし、これからのそれ

ぞれの進路先で一層の活躍を期待しています。

今年は去年に引き続き、多数の社会人経験を経た方々が卒業します。自らの生き方を考え、保育・幼児教育また社会福祉に貢献しようとして転進した方々の決断に敬意を表し、その活躍に大いに期待をしています。

さて、今の世の中の話は、相変わらずの少子化・高齢化・保育園が足りない等々、われわれに直接関係あるもので満ちています。

私も、保育園が足りないという声に応じて明德幼稚園をこども園にする計画を進めてきました。その特徴は、3歳未満児については1歳からの入園にしたことです。最近よく聞く話は、1年間の育児休職を取り1歳になったこどもを保育園に入れようとする0歳からの持ち上がりで既に定員がいっぱいで途中入園ができないということです。

そこで、そのような保護者のために1歳から入園するこども園を作ろうと考えたわけです。幸いこのコンセプトは支持され1・2歳とも15名ずつの定員いっぱいの子どもを迎えることになりました。

場所は皆様ご存知の通り、短大と学園正門の間に新園舎が完成しています。園舎の前には古墳があります。今までは樹木がうっそうと茂っていたのですが、これを適度に伐採して明るくし、花を植えて、こどもが登る道を作りました。約1500年前に作られた古墳ですからどなたが眠っているのかわかりませんが、神社の神主さんに拜んでもらい上で子供が遊ぶことの許可をいただきました。古墳の上でこどもが遊ぶという、ほかにはないこども園になるはずですよ。

さて、明德には幼稚園・こども園・保育園が六つあります。これらのいずれも「センスオブワンダー」すなわち「自然に対する感動や不思議」を感じられるような保育を心がけています。私もこの理念に沿った保育のために授業をしています。ここでは二つ、例を挙げておきます。

最初は「たいようのふしぎ」という授業です。よく晴れた日に望遠鏡を持って保育園に行きます。まず、太陽を目で見たいはいけませんよ、見ると目が焼けてしまうよ、という注意をします。なぜ目が焼けるのかの説明には虫眼鏡を使います。虫眼鏡で太陽の光を集めて紙を燃やし、みんなの目の中にも小さなレン

ズが入っているんだよ、だからこの紙のように燃えてしまうよ、と説明します。これはおおうけですね。紙を燃やしたい人、というみんなはいはいと手を上げて殺到してきます。20人、30人の園児が一通り紙を燃やすまで30分ぐらいかかります。レンズを太陽光線に対して直角方向に保ち焦点を合わせないといけないのでこれが結構難しいのです。

次に太陽専用サングラスを渡して肉眼で太陽を見せます。それから望遠鏡で太陽を白い紙に投影して見せます。さらに特殊なフィルターを通してみた、炎を吹き出す太陽の写真を見せます。最後にプリズムを取り出し、虹を作ってみせます。空の虹はガラスのプリズムが浮いているのではなく雨の後に小さな水滴が浮いているからだ、ということもすぐ理解してくれます。ここまで約1時間、みんな集中し、感動してくれます。

それから「おもさのふしぎ」という授業もやります。用意するものは「体重計」「台所用の食品の重さを測るはかり」肉100グラムなどをはかる小さなはかりです。そして「粘土」これだけです。

まず、台所はかりに粘土を載せて重さを測ります。100グラムと数字が出てきたとします。次に粘土を二つにちぎってのせたらどうなるか、予想させます。みなさんは経験上、重さは変わらないということはおわかりでしょうが、5歳児にはまだわかりません。二つになったから重くなるという子、小さくなったから軽くなるという子、変わらないという子、答は三つに別れます。正解は実験で一目瞭然ですよ。

次に100グラムの粘土をのせて、はかりを手を持って下に下げながら重さを測ります。すると90グラム・80グラムと軽くなります。デジタル表示だからすぐわかります。これを見せるとみんな不思議な顔をする。そこで体重計に乗ってしゃがんだり、立ったりしてもらおう。

しゃがむと一瞬軽くなり、立ち上がると一瞬重くなる——という実験です。質量と重さの違いです。これはもう高校の物理です。そして最後に思考実験。粘土を載せたはかりを下に下げるのではなく、手から離して落としたり重さはどうなるか、という問いかけです。一部のこどもは「浮いているから重さはゼロ」と答えてくれます。

人工衛星や宇宙ステーションはなぜ落ちてこないのか、ではなく、落ちているのだ、だから重さがなくなって無重力状態なのだ、ということがこれでわかります。これがわかっていない大人も意外に多いのです。宇宙は真空中で地球の引力も届かない、だから無重力だ、という程度の理解しかない人もめずらしくないようです。でも私の授業を受けたこどもは理解してくれました。これがセンスオブワンダーの授業というものです。

みなさんにもこんな授業をしていただきたいな、と思います。将来AIと競わなければいけないこどもたちには今まで以上にセンスオブワンダーがたくさん必要になるはずです。

皆さんがこれから出て行く世の中、ほかにもいろいろ問題があるでしょう。しかし、教育・保育という仕事の尊さは永遠のものです。子どもの数が減れば逆にその重要性がますます大きくなっていきます。

子どもを愛して、子どもの幸せのために力を尽くしてくれることを期待し、理事長よりの卒業のお祝いのことばといたします。



学友会会長 飯田 琴乃 より挨拶

明德を選んで良かった！胸を張って、心からそう言える2年間でした。高校ではあれほど長く感じられた55分の授業が嘘のような、あっという間の90分。学ぶことの楽しさ。保育という素晴らしい世界。心から信頼し、何度も支えられた大人の存在。色々なことに挑戦出来た、周りの支えや環境。そして何より、これから先も繋がっていたいと思える温かい仲間との出会い。本当に、本当に、何もかもが最高でした！綺麗な言葉を使って書きたい訳ではなく、今、心からそう思えるのです。

中でも、特に言える明德の良さは、温かい人との出会い、繋がりでした。病院で例えると、患者さんからすればたった一人の頼れる医師ですが、医師からすれば、多くの患者さんを抱える中の1人。時に、ガッカリするような診察もあります。しかし明德の

大人は違いました。これまでも今も、沢山の学生と出会い、今も抱えているにも関わらず、一人一人、本当に親身になって、私たちと向き合って下さいました。しっかりと見ていて下さいました。これほどまでに自分のことを、親身になって考え、共に悩んでくれる大人に出会えた事は、私にとって、かけがえのない人生の宝物です。数々の人たちに支えられたからこそ、今の自分がある。心からそう思います

しかし、良い思い出ばかりでは無く、時に辛く、生きるのをやめたいと思うほど一杯になった時期もありました。沢山悩んだ学友会、友人との関係、自分自身について。本当に色々な壁に出会い、沢山の悩んだ2年間でもありました。しかし、悩んだ壁全てを、今は誇りに思うのです。今、自信を持って自分の一部だと言える大切な、貴重な思い出です。

きっと必ず、今後の自分への糧となる経験だったと思います。

3月15日。私は、千葉明德短期大学を卒業しました。片道2時間以上かかった通学も、もう終わりです。ここ明德で学べたこと、出会えた人、積

んできた経験。全てを！心から誇りに思います。

しかし、これがゴールではありません。これからがスタートです！新しいステージで、自分が選んだ環境で、この春から新たに、素敵な保育者を目指して頑張ります！

同じ学年の仲間たち、1年生、先生方や事務の方、ここ明德で出会った全ての人との出会いを、これからも大切にしていきたいです。これからも繋がりを続けて居たいです。本当に、本当に、2年間ありがとうございました！





退職される 方々

教員の 古山 律子

この度3月末日をもちまして、千葉明德短期大学での勤務を終了することとなりました。たくさんの貴重な経験をさせていただきました。ご縁をいただいた皆様方、本当にありがとうございました。

私はこれまで非常勤講師の経験はありましたが、養成校での専任教員の仕事は、明德が初めてでした。戸惑うことも多くありました。そんな時、いつも周囲の先生方や事務職の方々が助けてくださいました。私にとって、この明德は温かく居心地のいい学校でした。勤務させていただいた8年間には、様々な思い出が詰まっています。ピアノの先生方と協力して、これまでになかったコンサートを開催しずっと続けてきたこと、毎年ゼミの学生たちと音楽劇を創作し、様々な保育園幼稚園等で実演の機会をいただいたこと、ゼミの学生たちと和太鼓集団鼓童が主催するアースセレブレーションというイベントに佐渡まで出かけて行ったこと、保育内容演習の授業で学生のレポートをたくさん読んだこと、あそび基礎演習で歌い踊る学生の弾ける笑顔に出会ったこと、ゼミの卒業生が出産祝いをしてくれたこと、教員控室で先生方と他愛のないおしゃ

べりをしたこと…数え切れないほどの思い出に包まれています。

4月からは、また新しい環境で保育者養成教育に携わります。この明德で成長させていただいたことを大切に人生の歩を進めていきたいと思います。ありがとうございました。

現代社会論でお世話になりました

小木曾宏先生

よしなか あつし先生

渡辺泰子先生

の3名の非常勤講師の方々も退職されます。学生の学びをサポートして頂き、ありがとうございました。

たいむの 本田美乃さん



短大卒業後は保育士として9年間勤務し、その間に結婚などで自身の環境が変わったことを機に、縁あって、2012年8月より卒業生のリカレント教育として戻ってくることができました。

たいむが日々大切にしている《子ども・保護者・学生・スタッフ・地域が共に育ち、育て、支え合える場所》のねらいには、保育者の目線や思考だけではいけないと痛感しました。視点を変え、来室する人が個々に《みんなで創るひろば》という意識をもつことでたくさんの交流が生まれてきており、そのなかにスタッフとして居られたことを嬉しく思います。

今日まで教職員やたくさんの方々に支えていただきました。保育者として、人として成長できる貴重な時間をいただけたことにとても感謝しています。本当にありがとうございました。（本田美乃）

保健室の 進藤延江さん



事務職の 高橋のぞみさん



高橋瞳さん



小島美由紀さん

岡村舞子さん



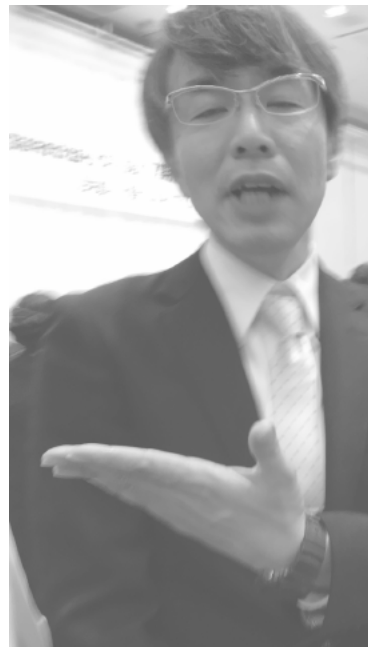
アドミッションセンターの職員として、学生の皆さんが高校生の時から関わる事ができたことは、学生生活を少しだけ長く一緒に過ごしたようで、より仲良くなれた気がします。

学生の皆さんには本当に元気と若さをたくさんもらいました！これからそれぞれの夢に向かって頑張ってくださいね。今までありがとうございました。（高橋瞳）

7年前、私は明徳の学生として短大に入学し、保育者を目指して2年間学んできました。卒業後は幼稚園で6年間勤め、ご縁がありまして明徳に戻ってきました。学生の皆さんと関わって行く中で子どもと関わる仕事の素敵さに再度気が付くことができ、もう一度現場で働きたいという気持ちが大きくなっていきました。1年半という短い期間でしたが、4月からは幼稚園教諭として再スタートします。初心の気持ちを忘れずに日々精進していきたいと思います。2年間という学生生活はあっという間に終わってしまいます。1日1日を大切にたくさんの方のことを学んで行ってください。今までありがとうございました。（岡村舞子）

「学びの成果発表会」後筆

小久保 圭一郎



毎年2月に実施される短期大学の「学びの成果発表会」。当日は、私の拙い司会で至らぬところが多々あったと思いますが、参加した学生ならびに教職員みなさまのご協力で無事終わることができました。この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとう。

さて、この発表会のタイトルにもある「学び」って何でしょう？

「学び」は、学び終わったあとになってはじめて自分が学んだことの有用性や意味について知ることができるという構造になっています。私のゼミの学生は、卒業レポートにこんなことを書きました。私のゼミは、学生が自分で作成したレジュメやテキストを用いて学生相手に模擬授業をするというものです。

【自分たちが作成したオリジナルの教科書を使い、実際に授業を行うことで先生たちが普段どのようなモチベーションで授業を行っているのか？また、受講している学生の態度や姿勢で先生がどのような気持ちになってしまうのか？など、実際に先生の立場で授業を試してみなければ経験することがなかった事をたくさん学ぶことが出来ました。

この学びは小久保先生のゼミを選考したからこそ学べたことだと考えています。私は、小久保先生のゼミを選ぶ前は授業に参加する際は、後方の席に座り、授業に対する発言などは特に行いませんでした。

しかし、今回の経験を通じて自分自身が授業を

行った際に、前方の座席が空席だと悲しく、学生みんなとの心の距離を感じました。講座を受講している人が発言をしないと教室内はとても静かで、ただ1人で話をして授業が終わるという孤立感に包まれました。

この経験から私は授業を受ける際は、なるべく前方の座席に座り、発言をするよう心がけるようになりました。小久保先生のゼミを選ぶ前と、選んだ後では授業に対する私なりの気持ちの持ち方や態度や考え方も大きく変わりました。】

(西村美紅)

彼女の言う「模擬授業をすることで『教員の苦勞』を知り、自身の『授業態度』を改めた」という学び。私はゼミのシラバス（講義要目）に、このような目標はまったく掲げていません。にもかかわらず、彼女はこうした学びを得た。これこそが「学び」の本質なのです。そしてその「学び」は、一人一人違って良い。それこそ、学生の人数分「学び」があるのです。

短期大学学長の金子先生はよく「みんな違っていいんだ」とおっしゃいます。しかし、それだけでは少々言葉が足りない。「夢は必ず叶う」という決まり文句と同じです。「夢は」と「叶う」の間には「不断の努力を続け、運が良ければある程度の確率で」というようなエクスキューズが抜けているんですね。;)

「学び」は一人一人違って良い。だからこそ「学びの成果発表会」の意味があるのです。

フィールドワーク 水俣合宿 明石 現

卒業演習・明石ゼミでは、1月26～28日にかけて熊本県水俣市で合宿を行いました。

ゼミ活動の柱として実践している、手話合唱を軸とした「福祉の音プロジェクト」を始めるきっかけの一つに、先ごるお亡くなりになられた石牟礼道子さんの著書「苦海浄土」があります。人間の尊厳とは何か、今を生きる我々にできることは何か。そこに多くの示唆を与えていただいた名著です。授業が終了するギリギリのタイミングでしたが、水俣という地を是非学生の皆さんに見てほしい、感じてほしいとの願いから、ゼミの最後のフィールドワークとして企画した次第です。ご案内、宿泊は一般財団法人・相思社さんにお世話になりました。滞在中は、水俣病患者の方の講話、水俣歴史考証館の見学、水俣病発生に関連する場所へのフィールドワーク等、大変有意義なプログラムを組んでくださり、その中で学生たちは多くのことを肌で感じ、心動かされたようです。

以下、スペースの都合により学生たちが現地で書いたレポートの中から2本のみ紹介します。

●富田彩香

水俣病患者の方の話をお聞きしたり、水俣市の現在を実際見て、水俣病の発症した経緯、患者の方の気持ちを知ることができました。考証館での資料で、政治家たちや、住民からの差別、偏見での言葉で『お金が欲しいから患者のフリをしている。』とありました。私はこの言葉を聞いて、苦しむ人々を見て言える言葉ではないし、同じ人間とは思えませんでした。また、チッソの排水が原因だと実験で明らかになっていたのに、その事実を水俣の人々には知らせずに、会社は排水を流し


続けたと聞き、国は水俣の人々を守るのではなく、高度経済成長をとったことは、許せない事だと思えます。

患者さんのお話では、発症したことで、たださえ苦しむのに、辛い検査や差別に耐えなくてはいけない、友達もいなくなった、という現実を聞き、今までの人生を180度変えさせられて、本当に悔しかっただろうと思えました。好きなことができる今が一番幸せだと話されていたのが印象に残りました。

水俣市を実際に見て、とても綺麗な景色ばかりで素敵な場所だと思えました。この今の水俣市があるのは、苦しみから耐えて頑張ってきた被害者の方々のおかげだと感じました。私たちは、この事実を知り忘れずにいることが必要だと思えました。

●松尾実紅

今日、患者さんさんのお話を聞いた事が一番印象に残ってます。自身の経験した事や感じていた事など色々な話を聞かせていただきました。実際に体験した水俣病の症状や国との戦い、差別など本当に日本で起こった事なのか疑いたくなるようなお話ばかりでした。中でも一番胸が痛かったのが、今現在学生などにお話をする際、水俣病患者のことを自分で“嫌われ者だから”と言っていた事です。本当に胸が痛くなりました。裁判でも勝訴という結果になったが、今でも苦しかった過去とは切り離すことはできない苦しさがあるのではないかと感じました。まだまだたくさん問題のある水俣病、もっと詳しく知りたいと思えるような一日になりました。



学事日程

3月

28日 (水)

❖ 新2年生教科ガイダンス

29日 (木)

❖ 水曜日課 2年生前期授業開始

30日 (金)

❖ 火曜日日課

4月

3日 (火)

❖ 入学式 (1年生)

4日 (水)

❖ 新1年生学生生活ガイダンス

5日 (木)

❖ 新1年生教科ガイダンス

6日 (金)

❖ 新1年生前期授業開始

23日 (月)

❖ 専門総合演習 (ゼミ) 開始

30日 (月・祝)

❖ 月曜日日課 (2年生)

